

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(七十点)

ぼくが経験した限りでは、どんなたのしい夢でも、たのしい現実には遠く及ばない反面、悪夢のほうは、むしろ現実の不安や恐怖を上まわる場合が多いような気がする。

たとえば、何度も繰返して見た、いちばんなじみ深い夢は、ぼくの場合、笑う月に追いかけられる夢だ。最初はたしか、小学生の頃だったと思う。恐怖のあまり、しばらくは、夜になって睡らなければならぬのが苦痛だったほどだ。正確なキ・オクはないが、半年か一年の間を置いて、周期的に笑う月のホウモンをうけた。最後はたしか十年ほど前だったように思う。かれこれ三十年にわたって、笑う月におびやかされつづけた計算になる。

そいつは、直径一メートル半ほどの、オレンジ色の満月で、地上三メートルばかりのところを、ただふわふわと追いかけてくる。「花王石鹼」の商標を正面から見たような顔が、くつきりと彫り込まれ、耳の後ろに届きそうなほど大きく裂けた薄い唇が、独特な非情さと脅迫めいた印象を与えている。そう言えば、何か音もたてていたつけ。今ふうに言えば、SF映画で使われる電子音に似た無機的なうなりだ。ぼくは見馴れぬロジを逃げまどい、最後はなんとかわが家のゲンカンにたどり着いて、後ろ手にドアを閉めたとたん、ぐにやりと隙間にはさまれた月の一部の嫌な感触が残る。そして目をさます。

① あの月の、何にそれほどおびやかされたのだろう。笑顔だろうか、うなり声だろうか、ドアの隙間でつぶれる感触だろうか。笑顔はたしかに不気味だった。考えてみると、「花王石鹼」の商標よりも、むしろランプ

のジョーカーに似ていたかもしれない。それにしても、あの恐怖感に見合うほどの顔だったろうか。いや、むしろ追跡そのものが恐かったと考えるべきだろう。追跡の恐怖がまず先にあつて、それが笑う月という形をとって現れたような気もする。単に怪物におびやかされるだけの夢なら、いつか見た、頭に何十本ものカサブタの角を生やした化物の方が、はるかに生々しく迫力にみちていた。

おそらく睡りの中で、まず恐怖の生理がつけられ、その生理が夢のスクリーンにあの月を投影したに違いない。だが恐怖の極限のイメージが、なぜ笑う月なのか、理由はばく自身にもわからない。たぶん理由なんか無いのだろう。カサブタの化物なら、現実に出会ってもいいかげん不気味だろうが、笑う月では正体見たり枯尾花もいとこだ。夢の中だけでしか通用しない。夢だけの論理なのだろう。それ以上の夢判断は趣味じゃない。

夜空を見上げているとき、視野の周辺にちらと星影がうつり、視線をあらためて向けなおすと、かえって見えなくなってしまう事がある。眼をそらしてやると、再び視界に戻ってくる。網膜の中心部と、周辺部の、機能の分業からくる現象だ。夢と現実の関係にも、どこか似たところがあるように思う。現実には、意識の中心部でより鮮明にとらえられるが、夢は、(i) 周辺部でしかとらえられず、中心に据えることで、(ii) 正体を見失ってしまいかねない。擬人化が、(iii) 動物の行動の真の意味を見誤らせるように、覚醒時の言葉 (因果関係) に翻訳することで、夢の夢らしさも風化してしまうのだ。夢は (iv) 夢として、下手な解釈は加えず、ありのままに受取るべきなのだろう。

正確にはおぼえていないが、以前、「睡眠」について面白い記事を読んだことがある。大脳の神経細胞を、

発光器にたとえたとして、^③ 睡っている状態を暗黒だと想像するのはとんだ思い違いだといふのである。大脳全体の光量はほぼ一定していて、死んでいないかぎり、ある部分が暗黒だということは、別の部分が逆比例して輝いていることになるらしいのだ。暗黒がひろがるにつれて、輝きは集中しながら、ますます明るくなる。大脳がもつとも覚醒しているときにこそ、輝く一点を残して、暗黒はますます深まっている。睡りは、その集中点^gがカクサンし、全体が淡い薄明に包まれた状態だといふのである。

一般に、睡りと覚醒は対応する両極だが、覚醒も度をすぎると過集中の状態におちいり、全部の光量を保持できなくなるものらしい。あふれた光は、^{*3} 周辺に^B 滲透^{しんとう}していき、一種睡眠にちかい状態に接近する。もつとも深い精神の集中が、しばしば睡眠に接したところで行われるゆえ^B だろう。

意識の網にかかってくれないからと言って、^④ 夢を簡単に^{ざい}雑魚あつかいしてはいけない。思考の飛躍は、しばしば意識の周辺で行われるものだ。自分の経験からいっても、仕事には^B ずみが出て精神が活性化している時ほど、よく夢を見る。回数が増えるだけでなく、内容が複雑になり、^B 細部が^{くわ}具体的になる。同時に、夢が豊富になっている時は、それだけ^{ひしやうりやく}飛翔力を得ているようだ。いくらエンジンを全開していても、地図に出ているコースを走っている間は、まだ駄目なのである。いつかコースを外れ、盲目にちかい周辺飛行を経過してからでない^とと、納得のいく目的地（作品）には^{たど}辿り着けないのだ。

夢は意識されない補助エンジンなのかもしれない。すくなくも意識下で書きつづっている創作ノートなのだろう。ただし夢というやつは、^⑤ 白昼の光にさらされた^ととたん、見るみる色あせ、変質しはじめる。もし有効に

4. 総. 国

利用するつもりなら、新鮮なうちに料理しておくべきだ。そこでここ数年来、ぼくは枕元まくらもとにテープ・レコーダ
ーを常備して待つことにした。見た夢をその場で生け捕りにするためである。つまり肝心かんじんなのは、笑う月の身
元や正体などではなく、笑う月 X なのである。

(安部公房『笑う月』)

*1 「花王石鹸」：現在の「花王」。

*2 翻訳 …… 翻訳に同じ。

*3 滲透 …… 浸透に同じ。

問1 …… 線部 a h のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 線部①「あの月の、何にそれほどおびやかされたのだろう」とあるが、筆者は最終的に「笑う月」
の何におびやかされていたと考えていますか。本文中より二字で抜き出しなさい。

問3 線部②「正体見たり枯尾花」とあるが、ここではどのような意味で使われているのか。次の中か
ら選び、記号で答えなさい。

ア 正体を知ると恐ろしくなる

イ 正体を知ると何でもなくなる

ウ 正体を知るとおもしろくなる

エ 正体を知ると悲しくなる

4. 総. 国

問4 (i) ~ (iv) 入る語句を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しばしば イ おしろ ウ やはり エ かえって オ つまり

問5 ——線部③「睡っている状態を暗黒だと想像するのはとんだ思い違いだというのである」とあるが、正しくはどのような状態なのか。本文中より十四字で抜き出さない。(句読点は含まない。)

問6 ——線部A、Bの意味として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 見合う

ア つれあう イ つめあう ウ つりあう エ つきあう

B ゆえん

ア 原点 イ 根本 ウ 行動 エ 理由

問7 ——線部④「夢を簡単に雑魚ざさあつかいしてはいけない」とあるが、その理由を次のようにまとめました。本文中より **I** は三字、**II** は五字でそれぞれ抜き出さない。

◇ 思考の飛躍は、しばしば意識の周辺で行われ、精神が **I** している時ほどよく夢を見る。しかし、型にはまった発想ではなく、コースを外れる発想を出すには、飛翔力が必要となり、夢はそのために必要な、意識されない補助エンジン、意識下の **II** だと考えられるから。

4. 総. 国

問 8 線部 α 、 β の語句の対義語を漢字で答えなさい。

問 9 線部 ⑤ 「白昼の光にさらされたたん」とはということか、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 目ざめるとすぐに イ お昼になるとすぐに

ウ 太陽がのぼるとすぐに エ 明るくなるとすぐに

問 10 線部 ⑥ 「生け捕りにする」とあるが、実際には何をするのか。解答欄に合うように本文中の語句を使って答えなさい。

問 11 X に入る語句を本文中からひらがな四字で抜き出しなさい。

4. 総. 国

二、次の各問いに答えなさい。(三〇点)

問1 次の①～⑤の熟語の組み立てが同じものを下から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|------|-----|----|---|----|---|----|---|----|---|
| ① 再会 | ハ ア | 登山 | イ | 予想 | ウ | 雷鳴 | エ | 休息 | ㇿ |
| ② 好奇 | ハ ア | 望遠 | イ | 不意 | ウ | 到達 | エ | 四散 | ㇿ |
| ③ 未完 | ハ ア | 復習 | イ | 必要 | ウ | 不足 | エ | 日没 | ㇿ |
| ④ 乗船 | ハ ア | 強化 | イ | 県営 | ウ | 善悪 | エ | 帰郷 | ㇿ |
| ⑤ 変化 | ハ ア | 直接 | イ | 人生 | ウ | 彫刻 | エ | 新聞 | ㇿ |

問2 次の①～⑤の文から()内に指示した単語を探し、文中の形そのまま抜き出しなさい。

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| ① このワクチンの開発は、新型コロナウイルス感染防止対策に役立つ。 | (連体詞) |
| ② ふつう私たちは、健康で長生きしたいと思っている。 | (副詞) |
| ③ 夜もふけて、庭の木立ちに花の色だけが白くなごやかだ。 | (動詞) |
| ④ 楽しく学校生活を送るには、心身ともに健全であるべきだ。 | (形容動詞) |
| ⑤ 彼女は思ったほどはつきりと驚く様子もなかった。 | (形容詞) |

4. 総. 国

問3

□ 次の①～⑤の慣用句が()内の意味になるように、□ に当てはまるひらがなを書きなさい。
一つに一字入るものとします。

① 小耳に

□ □ □

(聞くとはなしに、ちらりと聞くこと。)

② お茶を

□ □ □

(あいまいにしてその場をとりつくろうこと。)

③ 気が

□ □ □

ない

(遠慮する必要が無く、心安いこと。)

④ しのぎを

□ □ □

(激しく戦うこと。)

⑤ 二足の

□ □ □

をはく

(一人で異なる職業を兼ねること。)

問題は以上で終了です。

受験番号	
氏名	
採点	

二											一			
問11	問10	問9	問8		問7		問6		問5	問4	問3	問2	問1	
			β	α	II	I	B	A		i			e	a
										ii			f	b
										iii			g	c
										iv			h	d

こと。

二				
問3	問2		問1	
①	⑤	①	⑤	①
②				
		②		②
③				
④				
		③		③
⑤				
		④		④

受験番号	氏名	
		採点

問1・7・8 (各3点) 問2・5・9・10・11 (各4点) 問3・4・6 (各2点)

											一			
問11	問10	問9	問8		問7		問6		問5	問4	問3	問2	問1	
その もの もの	夢の内容をテープ・レコーダーに録音(記録)すること。	ア	β	α	II	I	B	A	全	i	イ	追	e	a
			抽象	有機	創作	活性化	エ	ウ	体が	イ		跡	玄関	記憶
					ノ				淡	ii			f	b
					ト				い					
									薄	エ			もうまく	訪問
									明					
									に					
									包					
									ま	iii			g	c
									れ					
									た	ア			拡散	きょうはく
									状					
									態	iv			h	d
													かんじん	路地

各2点 (2×15)

					二	
問3	問2		問1			
①	⑤	①	⑤	①		
は	なかっ	この	ウ	イ		
さ						
む						
②						
に						
ご		②		②		
す		ふつう		ア		
③						
お						
け						
④		③		③		
け		ふけ		ウ		
ず						
る						
⑤						
わ						
ら		④		④		
じ		健康で		エ		